

「持続可能な社会の創り手」の育成を目指して

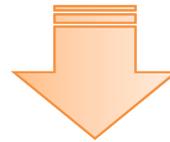
目標4 . すべての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

2. 持続可能な開発のための教育は…(中略)…**質の高い教育に関する持続可能な開発目標に不可欠な要素であり、その他の全ての持続可能な開発目標の成功への鍵**であることを再確認する。

国連総会決議 A/C.2/72/L/45 (2017年11月)



ESDは、持続可能な社会の創り手の育成を通じ、SDGsのすべてのゴールの達成に寄与



日本は、SDG4(教育)のリーディング・エージェンシーであるユネスコが主導するESD実施の枠組み作りにも積極的に参画し、国際的なESDの推進にも大きく貢献。

- 国連ESDの10年(2005年～2014年)

- ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(2015年～2019年)

→「国連ESDの10年」の最終年である2014年に、日本でユネスコ世界会議(あいち・なごや会議)を開催し、「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」を正式に発表。

- ESD for 2030(2020年～2030年)

→来年から開始される新たなESD推進の国際枠組みであり、SDGsの達成目標年である2030年に照準を合わせている。日本はドイツ、ケニアとともにローンチ国となっており、今年秋の第40回ユネスコ総会及び第74回国連総会において、正式に採択。なお、9月5日には、日本でESD for 2030のプレローンチ会合を開催。



【GAPの成果】

◎ESDの普及の成果として、これまで以下のような成果が報告されている。

432の政策文書の策定	154万人の教育者の能力向上
701のESD推進プログラムの実施	1万5千の教員養成機関への支援
7万3千以上の学校の参加	172万人のユースリーダーの支援
246万の学習者への支援	1200の民間機関のネットワーク構築

【今後の課題】

量的な普及を踏まえた質的向上

- ◆エビデンスベースでの国内実施計画の策定や実施状況のモニタリング
- ◆ESDの担い手どうしのネットワーク構築支援
- ◆より広範なSDGsコミュニティにおける存在感向上



「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて(ESD for 2030)」(2020年～2030年)

- 目標**：ESDの強化とSDGsの17の全ての目標達成への貢献を通じて、より公正で持続可能な世界の構築を目指すこと。
- 構造**：GAPの**優先行動分野**は維持しつつ、これまでの教訓を踏まえて一部調整。
 - 様々なステークホルダーで構築される1つの**包括的ネットワークの構築**
 - 5つの優先行動分野のパートナーネットワークを越えた**横断的活動・協力の強化**
- 加盟国の活動**：2030年までにSDGsで設定されたアジェンダを達成するために、5つ全ての優先行動分野でさらなる努力を求める。

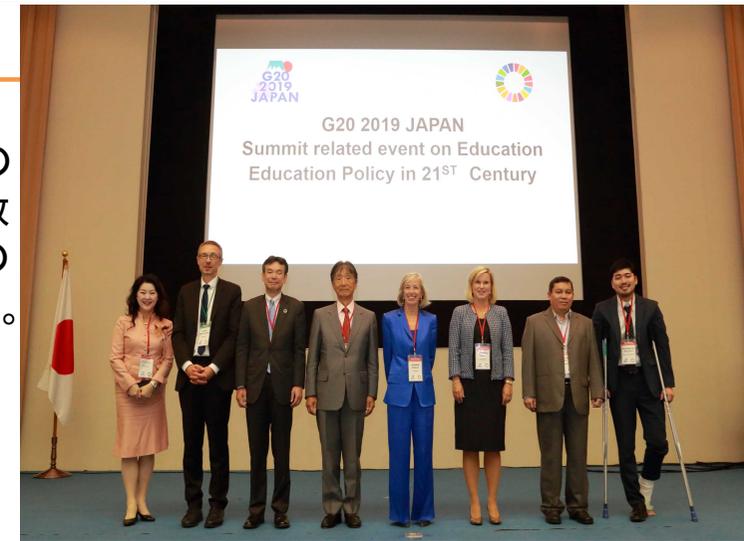
ESDの推進に係る最近の主な動き

「ESD for 2030」プレ・ローンチセッション

9月5日に国連大学において開催。安西祐一郎 日本ユネスコ国内委員会会長からのSDGs達成に向けた日本の取組に関する発表、ステファニア・ジャンニーニ ユネスコ教育担当事務局長補からの2030年に向けたESDに関する基調講演のほか、国内外のステークホルダーからSDGs達成に向けたESDの取組に関する発表(※)が行われた。

(※)発表者

重松雅治 麗澤中学・高等学校教務部副部長国際担当
伊東裕 ANAホールディングス株式会社代表取締役常務執行役員
カトリン・ハンケン ドイツ連邦教育・研究省ESD課長
エリー・リカルド・ヌルザル インドネシア研究技術高等教育省企画局長



国連ハイレベルウィークにおけるサイドイベント

柴山前文部科学大臣とアズレー・ユネスコ事務局長との間の合意に基づき、国連総会に合わせたサイドイベントを国連本部で開催。「持続可能な開発のための教育(ESD):気候変動アクションに向けた学び」と題して、日本の信託基金により実施。気候変動という課題のために教育が貢献できることについて、若者と政策担当者とのパネルディスカッションや参加者(約100名)との議論が行われた。日本からは、慶應義塾大学の学生及び広島県のユネスコスクールの高校生が参加。



SDGサミットにおける総理ステートメント

9月24日～25日に開催されたSDGサミットで、安倍総理からESDの推進に向けた決意を表明。

(総理ご発言抜粋)

本年日本で開催したG20大阪サミットやTICAD7において、次に述べる(中略)取組を議長として主導しました。

(中略)

② **持続可能な開発のための教育(ESD)の推進**と、途上国の女性のエンパワーメントとして、3年間で400万人へ質の高い教育の機会の提供。

ユネスコと日本ユネスコ国内委員会

国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization U.N.E.S.C.O.)は、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関です。

SDG4(教育)のリーディング・エージェンシーであり、SDG4ステアリングコミッティを主催しています。

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

Since wars begin in the minds of men,
it is in the minds of men that the defenses of peace must be constructed.

(ユネスコ憲章前文)



日本ユネスコ国内委員会

日本ユネスコ国内委員会は、我が国におけるユネスコ活動に関する助言、企画、連絡及び調査を行う機関として、ユネスコ活動に関する法律第6条に基づき、我が国の関係大臣(文部科学大臣、外務大臣等)の諮問に応じて、次の事項を調査審議し、これらに関して必要と認められる事項を関係大臣(文部科学大臣等)に建議(意見・希望)する機関です。

- ユネスコ総会における政府代表及びユネスコに対する常駐政府代表の選考
- ユネスコ総会に対する議事及び議案の提出等
- ユネスコに関係のある国際会議への参加
- ユネスコに関係のある条約その他の国際約束の締結
- 我が国の行うユネスコ活動の実施計画
- ユネスコの目的及びユネスコ活動に関する国民の理解の増進
- 民間のユネスコ活動に対する助言、協力や援助
- ユネスコ活動に関する法令の立案及び予算の編成についての基本方針



建議「ユネスコ活動の活性化について」

令和元年9月、第145回日本ユネスコ国内委員会総会において、「ユネスコ活動の活性化について」審議し、9年ぶりとなる建議をまとめた。この建議は、日本ユネスコ国内委員会の発意により、中長期的観点から、我が国のユネスコ活動の方針等について、関係大臣に対し提言したもの。

1. SDGs達成に向けた、持続可能な開発のための教育(ESD)の推進における主導的な役割の維持

ESD推進のための新たな枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030）」が本年秋に採択されることを契機に、ESD提唱国にふさわしい国内外のユネスコ活動の充実を図ること。

その際、SDGs策定後のESDについて「SDGsの目標とESDの関係が分かりにくい」「ESDを通じてどういう力が身につくのか見えにくい」「人や時間のリソースが限られる中でどのように取り組めば効果的か知りたい」といった国内の声に応え、SDGsに関する知識を広めるのみならず、「持続可能な社会の創り手」として必要な力を育むというESDの考え方をわかりやすく整理して共有すること。また、教育関係者のみならず、民間も含めた多様なステークホルダーが連携し推進できるよう、本建議5に提言するプラットフォームの活用を図ること。あわせて、ESDの拠点であるユネスコスクールが活動の質を高め、その成果を普及することができるよう、指導の工夫・改善や国内外のネットワークづくりを支援すること。

国際協力にあたっては、日本型教育の海外展開推進事業（EDU - Portニッポン）等の二国間協力との連携も図りつつ、ESD推進に向けたカリキュラム改善や、先端技術の活用を含めた指導環境や指導法の改善、教員の養成・研修、安全な学校環境づくりなど、日本の経験を生かせる幅広い分野において、多様な関係者と連携した協力を進めること。また、国内の教育活動と国際協力の成果が往還するよう努めること。

2. 「国連海洋科学の10年」に向けた活動の活性化

3. 加盟国間の友好と相互理解の促進のためのユネスコ改革への貢献

4. ユネスコ活動のメリットを生かした地域創生や多文化共生社会の構築

5. 多様なステークホルダーの連携を深める戦略的なプラットフォームの構築



『SDGsアクションプラン2020』のポイント

- 日本は、豊かで活力のある「誰一人取り残さない」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「人間の安全保障」の理念に基づき、世界の「国づくり」と「人づくり」に貢献。SDGsの力強い担い手たる日本の姿を国際社会に示す。
- 『SDGsアクションプラン2020』では、改定されたSDGs実施指針の下、今後の10年を2030年の目標達成に向けた「行動の10年」とすべく、2020年に実施する政府の具体的な取組を盛り込んだ。
- 国内実施・国際協力の両面において、次の3本柱を中核とする「日本のSDGsモデル」の展開を加速化していく。

I. ビジネスとイノベーション ～SDGsと連動する「Society 5.0」の推進～

ビジネス

- ▶ 企業経営へのSDGsの取り込み及びESG投資を後押し。
- ▶ 「Connected Industries」の推進
- ▶ 中小企業のSDGs取組強化のための関係団体・地域、金融機関との連携を強化。

科学技術イノベーション(STI)

- ▶ STI for SDGsロードマップ策定と、各国のロードマップ策定支援。
- ▶ STI for SDGsプラットフォームの構築。
- ▶ 研究開発成果の社会実装化促進。
- ▶ バイオ戦略の推進による持続可能な循環型社会の実現(バイオエコノミー)。
- ▶ スマート農林水産業の推進。
- ▶ 「Society5.0」を支えるICT分野の研究開発、AI、ビッグデータの活用。

II. SDGsを原動力とした地方創生、 強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

地方創生の推進

- ▶ SDGs未来都市、地方創生SDGs官民連携プラットフォームを通じた民間参画の促進、地方創生SDGs国際フォーラムを通じた普及展開
- ▶ 「地方創生SDGs金融」を通じた「自律的好循環」の形成に向け、SDGsに取り組む地域事業者等の登録・認証制度等を推進

強靱なまちづくり

- ▶ 防災・減災、国土強靱化の推進、エネルギーインフラ強化やグリーンインフラの推進
- ▶ 質の高いインフラの推進

循環共生型社会の構築

- ▶ 東京オリンピック・パラリンピックに向けた持続可能性の配慮
- ▶ 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実現に向けた海洋プラスチックごみ対策の推進。
- ▶ 地域循環共生圏づくりの促進。
- ▶ 「パリ協定長期成長戦略」に基づく施策の実施。

III. SDGsの担い手としての 次世代・女性のエンパワーメント

次世代・女性のエンパワーメント

- ▶ 働き方改革の着実な実施
- ▶ あらゆる分野における女性の活躍推進
- ▶ ダイバーシティ・バリアフリーの推進
- ▶ 「次世代のSDGs推進プラットフォーム」の内外での活動を支援。

「人づくり」の中核としての保健、教育

- ▶ 東京オリンピック・パラリンピックを通じたスポーツSDGsの推進。
- ▶ 新学習指導要領を踏まえた持続可能な開発のための教育(ESD)の推進。
- ▶ ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)推進
- ▶ 東京栄養サミット2020の開催、食育の推進。

国際社会 への展開

2020年に開催される、京都コンgres(4月)、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(7月～9月)、アジア・太平洋水サミット(10月)、東京栄養サミット2020(時期調整中)等の機会も活用し、国際社会に日本のSDGsの取組を共有・展開していく。



「SDGs実施指針」優先課題①【主な取組】: あらゆる人々が活躍する社会の実現(続き)

「次世代のSDGs推進プラットフォーム」の立ち上げ

2030年以降にSDGs推進の主役となる次世代によるSDGsへの関与を深め、主体的な推進を加速化し、国際社会に対して、次世代のSDGs推進に関する日本の「SDGsモデル」を示すため、2018年12月に次世代のSDGs推進プラットフォームを立ち上げ。

【活動実績】

- ・2019年3月のWAW!開催の機会に、プラットフォームメンバーがマララ・ユスフザイ氏(ノーベル平和賞受賞者)と、SDGs達成の観点から、女子教育の推進や質の向上、女性の社会・経済的進出に果たす企業の役割等につき意見交換。
- ・2019年4月にNYで開催された国連経済社会理事会ユースフォーラムにおいて、プラットフォームメンバーが日本代表団として、SDGs達成に向けた日本の若者の参画の重要性について発言。また、SDGs達成に向けた若者による制度的・包摂的な参画を推進し、そのための諸外国の若者同士のネットワークを強化することを目的とするサイドイベントを実施。
- ・2019年5月にドイツ・ボンで開催されたUNDP主催「SDG Global Festival of Action 2019」にて日本の次世代の取組を国際社会に対して発信。
- ・2019年7月に国連ハイレベル政治フォーラムに際する日本政府主催レセプションで次世代を含む我が国のSDGsモデルを発信。



【ステアリング・コミティ】
(※アルファベット順)



スポーツSDGsの推進

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及びワールドマスターズゲームズ2021関西等、大規模国際競技大会の連続開催の機会を活用し、SDGsの認知度を高め、スポーツが多様な社会課題の解決に貢献しうることについて啓発活動を行う。また、賛同する団体等と連携し、スポーツを通じた多様な社会課題の解決への貢献に係る活動の推進を図る。



次世代の教育振興

国内外におけるSDGsの達成を担う人材育成の強化

ユネスコとの連携による国際協力の強化

2020年からESD実施の新たな国際枠組みである「ESD for 2030」が開始されることを受け、我が国のイニシアティブによりESDの国際的なスタンダードとしての位置づけをさらに強めるとともに、アジア太平洋地域を対象とした我が国の知見・経験を活かした国際協力を行うため、ユネスコに対して信託基金を拠出し、教育及び科学の分野を通じたSDGsの達成に貢献する。

新学習指導要領を踏まえた持続可能な開発のための教育(ESD)の推進

ESDは、「持続可能な社会の創り手」を育むため、地球規模課題を主体的に捉え、その解決に向けて考え、行動する力を育成することで、価値観や行動の変容をもたらす教育であり、すべてのSDGsの達成に寄与。ESDの推進拠点のユネスコスクールのネットワークの活用や、優れたESDの取組に対する補助事業等を通じ、我が国におけるESDを一層強力に推進する。



食育の推進

第3次食育推進基本計画に基づき、食料の生産から消費にわたる各段階を通じて、日本型食生活の普及と、食や農林水産業への理解増進に向けた取組を一体的に推進し、食育を国民運動として展開。(R2当初0.6億円)

金融経済教育の推進

各個人がニーズに見合う金融サービスを適切に選択できるよう、学校教育において正しい金融知識を得られる機会の確保や、社会人に対する職場を通じたつみたてNISAの普及などにより、金融・情報リテラシーの向上を図る。



(R2当初0.4億円)

ICT人材育成・教育基盤構築事業

Society5.0時代に対応可能な人材を育成するため、地域各地で子供たちにプログラミング演習の機会を提供する地域ICTクラブの普及促進等を行う。(R2当初0.9億円の内数)

ガザ教員招へい

紛争下にある次世代の教育支援に携わるガザ地区の教員を日本に招へいし、日本の教員と交流し、互いに自らの経験を伝え、意見交換し、平和教育・道徳及び情操教育の理解促進、その経験や成果をガザの教育現場を通じガザの子供たちに還元。この事業によりパレスチナの学校教育への貢献、さらには将来的なガザ地区を含むパレスチナの安定、平和や発展への貢献が期待される。(R2当初0.1億円)
2019年3月、パレスチナのガザ地区の教員10名(公立6名、UNRWA校4名)が訪日し、広島市の平和記念資料館(原爆ドーム)視察、日本の小学校における平和教育授業の視察やガザ地区についての講演を行う等のプログラムを実施した。

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

何を

どのように学び、

何ができるようになるか

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、最も必要な事実的知識の暗記が大学入学選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

Subject Goals Set in Courses of Study for Elementary Schools (announced in March 2017)

Subject	Goal	Knowledge, Skills		
		Ability to thinking, judge, express	Motivation to learn, humanities	
Japanese language	◎ Fostering of competencies to accurately understand and appropriately express oneself in Japanese by linguistic activities and to widen perspectives and stimulate thinking through language.	① Enable students to understand the special features and appropriate usage of Japanese language necessary for daily life.	② Enhance ability to communicate in interactions with people in daily life, foster thinking capability and imagination.	③ Foster recognition of the good qualities of language, sense of language, the value of the Japanese language, and respect for the national language, as well as stimulate the desire to improve their facility with Japanese.
Social studies	◎ Foster basic competencies necessary as a citizen to form a democratic and peaceful state and society and live actively in the globalizing international society by stimulating and widening students' social perspectives and points of view and encouraging them to explore and solve problems.	① Understand civic life through knowledge of history, traditions, and culture of local regions and nation, mechanisms and workings of modern society, and geographic environment of local regions and nation; acquire skills for appropriately collecting and considering information through investigation of various materials.	② Consider from diverse perspectives the mutual relationships, special characteristics, and meaning of social phenomena; develop ability to choose and judge ways to engage in society with the aim of grasping and solving problems seen in society; foster ability to express appropriately ideas, choices, and judgments.	③ Foster willingness to independently resolve problems and consider how to make a better society; pride in and love of local region through multi-sided understanding of diverse ideas; awareness as a member of the local community; love of history and territorial land of the nation; awareness as citizen who will bear the future of the nation; and awareness of importance of living together with the peoples of the world.
Arithmetic C	◎ Foster competencies for having facility to handle numbers through arithmetic-based activities that stimulate awareness of numeracy.	① Enable understanding of fundamental concepts and properties of quantities and shapes, foster skills for mathematically handling daily life matters.	② Foster ability to grasp mathematically daily life occurrences, consider options and prospects; discern the properties of fundamental amounts and shapes and consider them comprehensively and developmentally; express clearly, concisely, and accurately phenomena using mathematical expressions and express them flexibly according to the aim.	③ Foster awareness of fun of mathematics activities and benefits of numeracy; willingness to review learning and develop better problem-solving skills; desire to apply learned numeracy skills to daily life and other studies.
Science	◎ Foster necessary competencies to solve scientifically problems related to natural phenomena and things through the conducting of experiments and forecasting observations, and stimulating a scientific outlook and thinking and the pleasure of interacting with nature.	① Foster understanding of nature and natural phenomena; acquire basic skills for observation and conducting experiments.	② Foster ability to solve problems through observation, conducting experiments, etc.	③ Foster love of nature, desire to independently solve problems.

Socio-environment studies	③ Foster competencies to live full and independent lives by developing way of thinking related to one's familiar daily life through specific activities and experiences.	① Become aware of special features and merits of oneself, familiar persons, society, and nature through the process of experience and activities; acquire necessary habits and skills for daily life.	② Understand connection between surrounding persons, society and nature to oneself; develop ability to think, express oneself about oneself and one's daily life.	③ Develop desire to learn and enrich one's daily life with willingness and desire by interacting with surrounding people, society, and nature.
Music	③ Foster competencies to exercise a musical sense and perspective through actual performance and appreciation of music.	① Understand musical structure, motifs; acquire basic skills to perform music one would like to perform.	② Able to devise musical expression and appreciate music.	③ Foster love of music and music sensibility through experience of enjoying performing music; develop closeness, sensitivity to music.
Arts and crafts	③ Develop sense of plastic arts through making and appreciating arts and crafts; foster competencies to make rich use of arts/crafts in daily life.	① Understand plastic arts perspective of objects and phenomena through one's own sensibility and actions; able to creatively make and express crafts by using materials and tools.	② Able to appreciate beauty, good points of plastic arts; able to deepen one's own sense and sensibility of arts and crafts products, and creatively express one's own ideas and concepts in plastic arts.	③ Foster attitude for creating pleasant and rich daily life through enjoyment of making things.
Home economics	③ Foster competencies to think about management of daily life; foster competencies to devise ways to make daily life better by experiencing practical activities related to clothing, food, home, etc.	① Develop basic and necessary understanding for daily life by acquiring knowledge and skills regarding the family and home, clothing, food and housing, consumption, and the community environment.	② Foster problem-solving ability by identifying problems in daily life, defining them, devising various solution methods, and practically evaluating and improving them.	③ Foster attitude of putting importance on family home life, considering relations with family members and neighbors, and devising measures for improving daily life as a family member.
Physical education	③ Encourage thinking about physical education and health, and integrate mind and body through learning process of identifying and solving problems; foster competencies for realizing a rich sports life and health throughout one's life.	① Acquire basic understanding of health and safety for daily life and various exercise methods appropriate for oneself, and basic physical education skills.	② Foster ability to identify personal issues regarding exercise and health, consider and evaluate solutions, and communicate them to others.	③ Foster attitude for enjoying bright daily life with aim of enjoying sports activities and improving health and physical strength.
Moral education	Based on the aims of moral education as expressed in clause 2 (2) of Article 1 of Chapter 1 General Provisions, the aim of moral education is to foster moral judgment, sentiment, and practical motivation and attitude based on an understanding of moral values through learning that fosters the discovery of self and multifarious way of thinking, and deepens thinking about one's own way of life in order to cultivate morality that will become the basis for living a better life. (As far as the coordination between the aims and the three pillars, please refer to "Materials 1-4," which summarize the deliberations of the WG for the transformation to moral education instruction.)			

学力概念	No	資質・能力・態度(主とめると)	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
知識 Knowledge "What we know"	A	社会的課題に関する知識・理解 一般常識や基礎学力をつけながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に付ける。	地域や社会の成り立ちについての基礎的な知識を得る。	地域の役割に向けた課題や、目の前の課題についての基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題について基礎的な知識を得る。	社会の課題について、習得した知識を深堀し、周辺情報や関連情報を集め理解する。	社会の課題について、目の前の課題と関係する知識を俯瞰してつなげ、人に説明できるレベルまで理解する。
	B	英語活用力 英語を使ってのコミュニケーションができるようになる。	英語でコミュニケーションをとうとうとする関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。	自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。	地域や研究内容について、原稿を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。(CEFR A1-L1)	地域や研究内容について、即興で英語でスピーチし、意見交換ができる。(CEFR A2-L1)	地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを交えながら英語で説得力を持って主張し、議論できる。(CEFR B2-L1)
技能(スキル・コンピテンシー) Skills "How we use what we know"	C	思考・創造力 物事を論理的に考え、批判的思考で掘り下げ、スケールの大きな考え方ができる。	与えられた情報を整理できる。	目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げて考えることができる。	メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価・活用しながら課題を発見したり設定できる。	現実と理想の差を踏まえながら、広い視野・大きなスケールで既知の事実について批判的に考えることができる。	未知のことについても粘り強く考え、自分の考えや常識にとらわれずに創造的に考え、新たなアイデアを生み出せる。
	D	表現・発信力 どのような場でも黙することなく自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。	突然指名されたときでも慌せず、集団の前で、自分の意見や考えを相手に伝えるように表現することができる。	ICTを活用したり、データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や背景を考えながら分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、熱意とストーリーを持って誰に落ちる形で説得力ある発信を行い、共感を得ることができる。
	E	他者との協働力 異文化・異なる感覚の人・異年齢等を乗り越え、仲間と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。	集団や他者との中で、決められたことや指示されたことに一人で取り組むことができる。	集団や他者との中で、自分の役割を見つけ、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援もできる。	集団や他者との中で、他者の目線に共感し、新たなものを取り入れながら、共通の目標に向かって活動を進めることができる。	集団や他者との中で、互いに良い部分を引き出しながら、win-winの関係を作ることができる。ICTを活用して協働を促進することができる。	文化や国境を越えて、社会を改革する行動につなぐ、互いに高めあう関係としての関係を構築する。
	F	マネジメント力 自分や組織での取り組みを計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら作業を実施できる。	指示を持たず、自発的かつ責任を持って自分の作業を実施することができる。	全体にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に対処することができる。	作業の繋がりがりや、全体スケジュールを意識し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担できる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで確認しながら進めることができる。
人格(キャラクター・センス) Character "How we engage in the world"	G	前向き・責任感・チャレンジ 自分を意味ある存在として考え自信を持ち、課題解決のために自分の役割を見つけ、全力で取り組み、決してあきらめず実行できる。	自分を意味ある存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして好意的に捉えて、主体的に取り組める。	集団や他者との中で、自分の役割を見つけることができ、すぐに解決方法が分からなくても考え続けることができる。	困難になっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、まず行動できる。	困難になっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる。
	H	寛容さ 異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやるあたたかさを持ち、協働して共に高めようとする事ができる。	集団や他者との中で、他者を気づかえる。	集団や他者との中で、相手の立場や考えを想像し、共感できる。	集団や他者に対して、思いやりをもって行動し、周囲の幸せを考えることができる。	考えの違う他者に対して、ユーモアを持って接するなど、他者との違いを楽しめる。社会や環境の変化を前向きに捉えられる。	考えの違う他者の意見や存在を、自分や社会をより良くしていくための重要なものと考え受け入れられる。
	I	能動的市民性 社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や国内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える問題に目を向けようとする。	社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会に貢献しようとする意欲と自分の価値観を持ち、自ら社会に影響を及ぼそうとする。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に語る事ができる。
自らを振り返り変えていく力(メタ認知) Metacognition "How we reflect and learn"	J	自分を変える力 自分の言動や行動を俯瞰して見つめ直し、常に改善しようとする意識を持ち、次の行動に繋げることができる。	自分を向上させるために、自分自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つめることができる。	自分の目標に近づく方法を考え自ら行動することができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直して反省しながら、学び続ける。次の行動につなげて取	社会の中での自分の役割や意義を俯瞰して考え、自分の目標と関連づけて大局的に行動できる。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

持続可能な社会を創る見方・考え方を働かせて 課題を解決

多様性（いろいろある）

相互性（かかわりあっている）

有限性（限りがある）

公平性（一人一人大切にする）

連携性（力を合わせる）

責任性（責任を持つ）

① ESDを通じて育みたい資質・能力

→ねらいの明確化・共有

② カリキュラム・マネジメントとホールスクールアプローチ

→新しい概念を共通の言葉で媒介
(誰一人取り残さず理解を図る)

③ 地域と共にある学校とESD

→国際的な共通課題のローカライズ
(自分ごとにする)

ユネスコスクール等における実践例

課題解決的学習

限られた資源の活用や、地域間の紛争など、クライシス(課題)が次々と出され、生徒たちがそれぞれの立場で交渉しながら解決を模索する教育型シミュレーション「ワールド・ピース・ゲーム」に参加した広島県の中高校生4名が登壇しパネルディスカッションを実施。自身の経験を基に、国際関係についての考えや、自身のキャリアとのつながりについて語った。



3つの柱 その1

ESDで育む資質・能力・行動の変容

ESDを通じて育みたい資質・能力の評価のため、ルーブリックを作成。生徒自身が目標の到達度合いを具体的に確認しつつ、今後の取組の方向性を確認できるようにしている。

年に3度評価
(春, 秋, 冬)

	1年	2年	3年
レベル 記入欄	春		
	秋		
	冬		
(2)項目			
本人	1年	組	番

本校で育みたい「3つの能力」と「3つの資質」	①情報整理力
	◆課題解決や新しい価値を創造するために必要なデータや情報を分析・整理することができる。
レベル 1	<input type="checkbox"/> テーマに関して与えられたデータや情報をおおよそ理解できる。
レベル 2	<input type="checkbox"/> テーマに関して与えられたデータの要点を正確に理解し、人に説明することができる。
レベル 3	<input type="checkbox"/> 与えられた情報に加え、テーマに関連するデータや情報を自分で書籍やネット等で検索しおおよそその特徴を理解できる。
レベル 4	<input type="checkbox"/> 既存の情報と自分が集めたデータや情報を見て特徴を正確に理解し、その資料を「分類・比較・対比」などしてまとめられる。
レベル 5	<input type="checkbox"/> 課題解決や新しい価値を創造するために効果的な資料を複数集め、正確に分析・整理し、「分類・比較・対比」に加え「予測・提案・創造・発明」などして新しい情報を生産している。

ユネスコスクールにおける実践例

3つの柱 その2

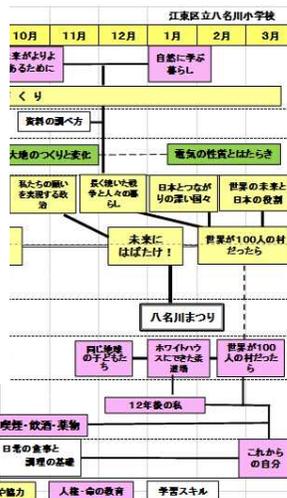
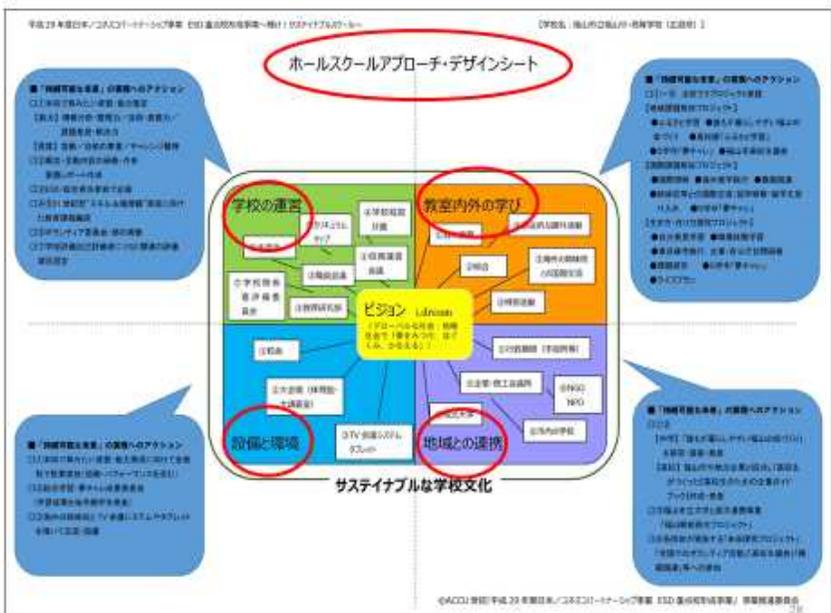
カリキュラム・マネジメントと ホール・スクール・アプローチ

教職員や地域と共通理解を図るための工夫をしながらカリキュラムをデザインしたり、教科横断的な学習指導のイメージマップとしてのESDカレンダーを作成したりするなど、教科横断的かつ学校全体で「持続可能な社会の創り手」の育成に向けたカリキュラムを編成・実施している。

3つの柱 その3

地域とともにある学校と ユネスコスクール

身近な地域課題の発見を目指して、小学生、高齢者、車いす利用者、外国人等になりきり、朝、夜、雨等の状況を想定したフィールドワークを実施、「自分ごと」としての解決策の提案を行っている。



国内外におけるユネスコ活動の推進

令和2年度予算額(案) 363百万円

- 戦後、我が国が初めて加盟した国際機関であるユネスコとは**長く緊密なパートナーシップ**を形成。ユネスコは、2020年以降、「持続可能な開発のための教育(ESD):SDGs達成に向けて(ESD for 2030)」といった**新たなフェーズが始動**する。
- こうした中、我が国は、**ユネスコ活動の多様なステークホルダーを結集し、日本の強みとユネスコの専門性を組み合わせた取組**を重点的に実施することで、国内外のユネスコ活動を**戦略的且つ効果的に推進**。

信託基金を通じたユネスコ事業への協力～我が国のプレゼンス向上とSDGs達成への貢献～ 200百万円(200百万円)

信託基金協力事業の実施を通じ、我が国の強みを生かした事業を戦略的・重点的に推進。我が国の影響力・プレゼンスの向上を図るとともに、重要施策において一層主導的な立場を確保しつつ、SDGs達成に向けた国際貢献・協力を進める。

アジア太平洋地域における教育・科学分野での戦略的・重点的支援

○開発途上国への教育協力事業

(アジア太平洋教育協力信託基金) 50百万円(50百万円)

多文化共生のための異文化理解教育や先端技術を活用した教育等において、我が国の知見・経験とユネスコの専門性を結集し、質の高い協力プログラムを共同開発

○ユネスコ地球規模課題の解決のための科学事業信託基金

拠出金40百万円(40百万円)

ユネスコ科学事業(海洋、水、生物多様性分野等)を通じ、能力開発・リーダー育成、研究ネットワーク形成、域内政策形成等を支援

ユネスコにおける我が国の主導的立場確保に資する

ユネスコ重点分野・課題への貢献

○SDGs達成に向けたESD信託基金拠出金 50百万円【新規】

「ESD for 2030」を効果的に推進するため、各国関係者の能力開発と政策立案支援、多様なステークホルダー(官民)間の知見の結集、ESD政策の存在感の向上に資する事業を実施
※既存事業(60百万円)を組替

○ユネスコ「世界の記憶」協力事業信託基金拠出金

60百万円(50百万円)

記憶物の保全・保護等に関する能力開発のためのワークショップ開催や各記録物の媒体に応じたデジタルアーカイブの構築支援

ユネスコ未来共創プラットフォーム ～世界と地域をつなぐユネスコ活動の推進～

112百万円【新規】

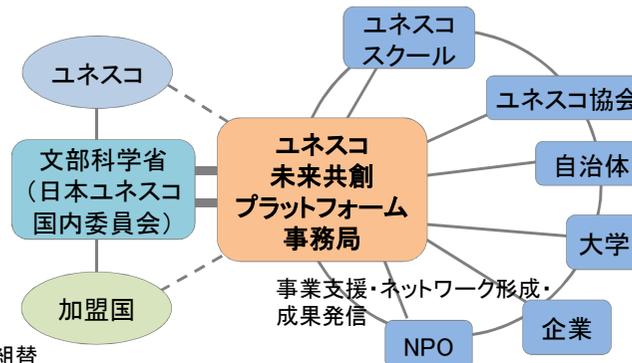
世界や地域の課題解決に資するユネスコ活動の活性化に向けて、SDGsの達成に向けた取組等を進める多様なステークホルダーの知見を得て、国内のユネスコネットワーク拠点の戦略的整備と先進的なユネスコ活動の海外展開を一体的に推進する体制を構築する。

✓ ユネスコ未来共創プラットフォーム事務局の構築・運営

✓ 国内ユネスコネットワーク拠点の戦略的整備

✓ 先進的なユネスコ活動の海外展開

※既存事業(110百万円)を組替



SDGs達成の担い手育成

(ESD) 推進事業 50百万円

(54百万円)

国内外で高まるESDのニーズを踏まえ、SDGs達成の担い手を育む多様な教育活動を実施・支援し、SDGs達成の担い手に必要な資質・能力の向上を図る。

✓ カリキュラム等の開発・実践

✓ 教師教育の推進

✓ 教育(学習)効果の評価と普及

✓ ユース世代の活動の推進

我が国の影響力・プレゼンス向上を図るとともに、SDGs達成に向けた貢献を果たす

ご清聴ありがとうございました。